

令和3年度 学校評価書 (実施段階)

特4

福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」

自己評価 学校運営計画(4月)
学校運営方針: 幸福度日本一の特別支援学校を目指して、社会の変化や個の教育的ニーズにシなやかに適応した教育活動全体を通して、生徒一人一人の人権を尊重した自己肯定感・自尊感情を育む知的障がい教育の充実を図る。
昨年度の成果と課題: 年度重点目標、具体的目標
【成果】教育的ニーズを踏まえた指導を行うことによる一人一人に応じた成長の実現【課題】・さらなる知的障がい教育の教職員としての専門性向上・主体性を発揮し社会でたくましく生きていく生徒の育成を目指した生徒支援の在り方の検討・一人一人の教育的ニーズに応じた進路指導の徹底
評価項目: 教務課、庶務課、1学年、2学年、3学年、生徒指導課、保健課、養務課、進路指導課、人権教育、支援課、研修課、交流課、事務部
具体的目標: 授業で有効なICTの活用を提示し、積極的な活用を促す。
「わかる授業」の授業実践の交流や、授業での成果と課題の共有化を図る取組を、研修課と連携して進める。
保護者、振興会及び同窓会との連携と協働に努めるとともに、活動の新たな方策の構築を図る。
職場間の親睦と職場環境の整備に努める。
生徒一人一人の実態や障がいの特性を把握、分析し、個に応じた目標及び手立てを考える。
話し合い活動を通して生徒が自分の意見を述べ、行事等の企画や運営に主体的に携わろうとする態度を育成する。
現代階での生徒一人一人の実態や学習達成度を踏まえ、適切な目標及び手立てを考える。
SSTやエンカウンター等を取り入れたり、ICTを活用したりして、生徒が考えを表現できる環境を整える。
社会参加や進路実現を見据えて、自立活動・道徳・特別活動を関連付けて学習の機会を充実させる。
生徒同士の大切な話ができる意見交流の機会を増やすため、学年委員の取組を充実させる。
可能性を引き出すような自己選択、自己決定の場を与え、自らの決断と責任のある行動がとれるように働きかける。
自己有用感を与え、協働的な人間関係の育成に努める。
生徒の心身の健康状態を把握し、生徒自らが安全で健康な生活を実践する力を養う。
食事に關する正しい知識やマナーを指導するとともに、感染症対策や衛生管理に対する意識の高揚を図る。
健康・衛生管理や危機対応に関する知識を深め、生徒自らが安全に行動できる力を育成する。
生徒が主体的に余暇活動や自治活動を行うことで寄宿舎生活を充実させ、楽しむことができるようにする。
社会的・職業的自立を目指した系統的なキャリア教育の推進と、個のニーズに応じた進路実現を目指す。
生徒、保護者、教職員への情報発信に努め、主体的に進路選択・決定ができる環境づくりに努める。
教育活動全体を通して、人権尊重の態度と実践力を育成する。
生徒会を中心に生徒・職員が一体となって「いじめ」を絶対に許さない学校づくりを進める。
支援課と担任等の連携を密にし、生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導及び必要な支援に努める。
地域の特別支援教育のセンター的機能を発揮するため、関係諸機関との連携を図る。
校内外の研修会や自主研修会を通して、教師の自律性のレベルアップを目指す。
他分掌と連携を密にし、あらゆる分野の学びの情報と共有する。
近隣地域の高等学校との交流実践や地域催事へ参加する。
新たな地域資源活用行事を含めた交流の実施及び、交流方法の検討を行う。
各分掌と情報の共有を図り、生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。
生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で情報発信する。

学校関係者評価
自己評価は
A: 適切である
B: 概ね適切である
C: やや適切である
D: 不適切である
項目ごとの評価: 教務課、庶務課、1学年、2学年、3学年、生徒指導課、保健課、養務課、進路指導課、人権教育、支援課、研修課、交流課、事務部
学校関係者評価委員会からの意見: ・保護者は1点の光を見つめるように北九州高等学園を見ている。子供たちが自立し、社会で生きていくために困らないよう、学校生活の中で、様々な力を身に付けてほしい。・生徒達が自己肯定感や自己有用感を感じることができるよう取組を今後もより豊かに実践してほしい。

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた今後の改善策
・教職員の専門性向上について焦点化を図り、必要度の高い研修図書の購入や、研修会の講師招聘を行う。
・部課長と各学年主任を中心に、事案に応じて関係するメンバーで速やかに協議と情報共有する場面を随時設け、連携を密にする。

評価項目以外のものに関する意見
特になし

---